

K N O
 小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

寒^さ河^が江^え川の水かさ多し上流の月山ダムが放流してゐて
 7月30日 N

庭の木をうるほすほどに雨降らず猛暑の夕は散水すなり
 8月2日 K

ヒロインの名も勝手によみつつ下巻にきてつと確かめぬ逢衣をあいとし
 8月6日 O

岩木川の濁れる流れに「北苑」の歌の友らよ避難されしや
 8月10日 K

町内の違いのようなことひとつ下松にきてしきり蟬声
 8月16日 O

蟬声のしきりなるを聞くときに記憶は語る夏の終はりと
 8月29日 N

久しぶりにミンミン蟬の声を聞く菩提寺の奥の院にひとり
 9月2日 K

翼あるカイトのようは案山子なり日ざし透かして大きくも揺る
 9月6日 O

パツキリと晴れたる空を縦横に汚してゆけりケムトレイルの雲
 9月15日 N

秋空に入道雲の白まぶし遠く台風侍らす奇なり
 9月15日 K

野分待つ秋の一日朝から降りみ降らずみ落ちつかなさに
 9月19日 O

秋彼岸過ぎて散歩に出でしとき金木犀かをる羽州山形
 10月1日 N

木犀^{もぎせ}と書いて犀の字見つめぬるその角「魔除け」と母は言ひにき
 10月6日 K

木が多く伐採されてそれも過去見通し、見晴らし今の価値なる
 10月13日 O

紅葉を夕日が照らす瀧^{りゅうせん}山は蔵王山の前にある山
 10月18日 N

柿の葉を秋の夕つ陽照らしぬるその実存のはなやぎはかな
 10月22日 K